



浅川博忠

マクロレンズ



正論の二匹狼！村上誠二郎氏

先週号で、今夏の安倍内閣改造人事において首相の盟友・塩崎恭久氏の重要閣僚就任、あるいは政調会長への登用の可能性濃厚と記した。愛媛県選出議員に関してみれば、4区で当選7回生の山本公一氏は、初入閣の有資格者なのでその動向が注目される存在となる。

逆にこうした可能性が皆無に近いのが、2区選出の当選9回生の村上誠一郎氏である。彼は小泉内閣時に内閣府特命大臣を務めているが、今回での再入閣はきわめて困難である。というのも、彼自身が特定秘密保護法や集団的自衛権行使問題について高い内閣支持率を誇示している安倍首相を、毅然として批判しているからだ。

初当選当時には、スパイ防止法導入に関して平然と時の中曽根首相に反対論を吹っかけた村上氏は、以来、信念を貫き通す気骨の政治家のスタンスを徹底させている。それでいながら、連続9回当選を重ねているのは、有権者がこのスタンスを支持し

てくれているとの彼の自負心を招いている。

その彼が通常国会の実質閉幕日の6月20日夕方6時から、東京タワー傍の東京プリンスホテルで励ます会を開いた。彼の反主流派的な立場からして、参加した政治家は山東昭子、鴨下一郎両氏等と少なかったが、企業や官僚などの支持者で会場は盛況だった。この場で彼は、恒例の講演兼挨拶をスライドを用いながら1時間にわたって行った。このケースの励ます会では珍しく、むしろセミナーに近い内容となる。

小選挙区制導入の弊害、財政再建の必要性、集団的自衛権行使よりも卓越した外交能力の必要性などに熱弁をふるったが、その内容はまさしく正論そのものである。常日頃から勉強熱心な彼は、説得力に富んだ話をしている。それだけに、特にこの数カ月間は各種マスコミから引っぱりだこの状態と化している。

筆者は青年時代に岸、佐藤両首相に反骨精神を貫いた一匹狼・宇都宮徳馬氏と接触する機会が多かった。宇都宮市はそれ故に当選回数を重ねても、とうとう大臣にはなれなかった。彼はまた、三木武夫氏と親しくしていたが、政治家生活の過半を無党派で過ごした。

その三木派を継いだのが河本敏夫氏であり、当初は河本派所属だった村上氏も高村派に代わって間もなく、無党派に徹している。そして正論を主唱するものが政治家の務めであり、出世のために決して信念を曲げぬとの強い姿勢に徹している。まさしく、宇都宮氏に次ぐ第二の一匹狼なのだ。

とは言え、政界及び民主主義は最後には数の力が総てとなる。そこで村上氏に注文したいのは、一匹狼の姿勢は評価するにせよ、やはり数人の仲間、同志を得る工夫と努力をして欲しいということになる。

励ます会では数人から減量せよとの注文が出されたが、体重を減らし仲間を増やすように頑張ってもらいたいものだ。

(政治評論家)